

小俣まちづくり便り

令和6年5月1日

Vol.43

(5/1・15合併号)

つなぐ～小俣の町の未来へ

先般、中日新聞に25年発行を続けてきたローカル季刊誌「NAGI 凧」が「後継者不在で潮時、来春、100号で終刊」との記事が掲載されておりました。

伊勢地域の記事が多く、町内の記事も多くありました。このような季刊誌以外にも、色んな行事、町内の工場・商店等も後継者なく無くなってきております。

小俣の町は、伊勢神宮に縁のある町で特別繁栄してきた町ではなく、農業を生業としてきた町でありましたが、小俣町史によると小俣町発展の原動力は「明野陸軍飛行学校の創設」「宮川モスリン株式会社の創業」「宮川駅付近の発展」と記されております。



戦後間もない頃、最も人口の増えた団塊の世代が生まれた頃でさえ小俣の人口は9,000人に満たない町で、その少ない人口の内、明野航空学校・紡績工場

等の職員家族等もたくさん住まわれておりました。

紡績工場内には、定時制ではありましたが、高校もあり、JR宮川駅前には町内で最も賑やかな地区で沢山の商店等があり、宮川座という映画館もありました。しかし、今や、宮川駅界隈で営業を続けておられる商店等は極めて少なくなっております。

かつての紡績工場は今や団地となっており、また、飛行場であったエリアの一部も住宅地となって、小学校の遠足地だった「大仏山」も団地に様変わりして、町は変貌してきております。

「不易流行」という言葉があります。時代の流れで、変えてい

かなければならないもの、生活様式はあります。いつまでも旧態依然では、取り残されていきます。

しかし、永久不変で残していかなければならない風習・しきたりや「もの」があります。後世に遺していくべき離宮院、伊勢神宮の摂社末社、寺院、伝統行事等もあります。

旧参宮街道もその証跡を残す碑でさえ無くなってきている箇所もあります。

農業を生業としていた小俣の町、農業を引き継ぐ後継者がおりません。専門店も大型ショッピングセンター等で地元商店の経営状態は悪化し、後継者もおりません。

まちづくり協議会も先細り状態で新たに活動に参加してくれる方も少ない状況で、引き継ぐ相手がなく、新たな息吹をと引き継ごう、と思っても、バトンを引き継ぐ状況下にはありません。



まちづくり協議会は、毎年5月に総会を開き、新たな活動を開始するという「1年草」であって1度植えたらずっと咲き続ける「宿根草」ではないので、前年度やれたことが次年度やれるとは限りません。

令和4年度にリニューアルして、月2回発行していたこの「小俣まちづくり便り」も、「継続」、「休刊」、「終刊」になるかも知れません。

小俣の町を活性化し、賑やかで、住み良い町にしようと感じておられる方は、

是非とも、小俣まちづくり協議会の活動に参加していただけないでしょうか。



能登半島の方々の1日も早い復興を願って

夢townproject委員会として昨年末に思い出project実行委員会(稲垣実行委員長)が行った「年越しイベント」の売り上げ利益「31,317円」を能登半島沖地震への義援金として1日も早い復興に役立てていただければと、日本赤十字社(伊勢市社会福祉協議会が窓口)さんへ寄付をさせていただきました。



爛漫! 入学される新一年生、進級されるみなさん おめでとうございます

小侯中、明野小、小侯小の3校に「みんなで広げよう、あいさつ運動」青空をイメージした新しい横断幕が掲げられます。



今年も、PTA、社会福祉協議会、ボランティアの皆さんと校門で元気お互いの顔が見えるあいさつを楽しみにしています。

この活動は月に一度ですが、参加してみたいと思う方は、是非、小侯まちづくり協議会まで連絡よろしくお願いたします。

基本 毎月第一月曜日 朝7:45~8:15 学校校門前であいさつをしていきます。

「あいさつ運動」は、大人が率先して手本になってやる必要があります。NHKのラジオ深夜便という番組があり、そのアンカーのある人が、自身の経験を次のように話してみえました。

同窓会で田舎に帰った時、その際、郊外に住んでいる姉の家に泊まり、あることを思い出して姉に聞きました。「以前、ここに泊まった時に近所を散歩していると、庭にいる女性や物干し台にいる女性、車を洗っている男性からも「こんにちは」と挨拶をされました。

あれは、「不審者と見られていたのか?」と姉に聞くと、「そんなことはないよ。この辺りはみんな挨拶をするんだから」と言って、「この辺りでは小学生のときに、道で会った人に挨拶をしましょうと教えられるんだよ」と言っておりました。「そんなことはないですよ!」と返したのですが、それが頭に残っていたからです。姉の話を聞いて、やはり、そんなことはないと思いましたが。大阪のアナウンサーの部屋でも、こんな(つまらないOBの)私にも持ちよく挨拶してくれる後輩が何人もいます。

挨拶をされると気持ちがよくなり、いい感じで仕事ができ、挨拶は職場の潤滑剤です。

また、そんな後輩がテレビに出ていると、「頑張れよ」と応援する気持ちになります。翻って自分は挨拶ができていないかと自問しました。

まずは自分から挨拶をしないといけないと改めて思いました。

編集後記

少子高齢化が将来への不安となっております。団塊の世代(S22年生~24年生)が中学生の頃、小侯の人口は約1万人で在校生は約700人でした。今や、小侯の人口は2万1千人に倍増しておりますが、市内で一番生徒数の多い小侯町でも中学生の生徒数は約650人と変わっておりません。小侯の人口は微増しておりますが、他の町では確実に減少しております。深刻な問題です

小侯まちづくり協議会

〒519-0505 伊勢市小侯町本町3番地 小侯町合同会館内

☎ 0596-65-7788 Fax 0596-65-7789

E-mail obata.com@chorus.ocn.ne.jp URL <http://obatamk.sakura.ne.jp>

(事務局オープン時間帯 原則 月~金の午前9時~午後0時00分)